

【MedSci Forum】 医療科学専攻一回生の就職活動**桐技会企画**

今年の春に初めての卒業生を送り出した医療科学専攻(現・医療科学類)。様々な分野に進んだ卒業生の中で、今回は病院や企業に就職した皆さんから後輩へのアドバイスをいただきました。

1 回生 A・I 大学病院勤務

「就活～或る大学病院の場合～」

【就活を始める時期】

どこからを就活と考えるかによりますが、私は病院に就職することを大体4年生の最初頃には決めていて、夏休みには自分がいいと思う病院に見学に行ったりしました。病院に見学に行ったり、実習したいのであれば、時間的にも時期的にも夏休み中がいいのではないかと思います。秋頃から病院の新卒者の募集が出始めて、一番多いのが12、1、2月頃だったと思います。その時期は自分の行きたい病院が募集をかけるかを常にチェックしていました。そして年明けに就職試験。病院は他の企業などに比べて募集が遅いのでギリギリまで就活といえるほどのことはできなかったです。色々な病院で試験が始まって実際に勝負どころとなるのは年明けくらいからでしょうか。

【募集要項の見つけ方】

私の場合は、就職先の病院のホームページから募集を知りました。その病院に直接、「採用はありますか？」と聞いたりもしたのですが、「募集があったらHPに載せるのでそちらで確認してください」と言われてしまいました。他には、筑波大学の就職課のサイト(臨床検査技師用)や、ハローワークのサイトなどもチェックしました。インターネットを大いに利用するのが良いと思います。

【病院見学について】

私は、4年生の夏休みに何件か就職したいと思った病院に見学に行きました。見学に行っただけが就職に有利に働いたかどうかはわかりませんが、行かないよりは行っておいの方がいいかもしれません。私の同期の新人も見学には来たと言っていたので。それに何より、自分のためにはプラスになると思います。自分が将来働くかもしれない場所の雰囲気や人々を少しでも知ることができて良いと思います。数件見学に行けば、病院同士の比較にもなって自分がどういう職場に適しているかなど考えられてとても良かったです。

【試験の内容について】

就職試験は、私の受けた病院は

- ・国家試験レベルの選択式問題
- ・英語の論文読解問題
- ・面接(4人ずつ)でした。

筆記試験の結果がどれだけ合否に影響しているかはわかりませんが、国試レベルの問題より英語論文読解問題に重点が置かれていると思います。特に私が受けたような大学病院では、英語論文読解問題の内容はネイチャーで発表された論文の一部で、“ポリフェノールが肥満に効果的？”みたいな内容でした。辞書の持ち込みは許可されていましたが、時間がなく、全問題に目を通すのに精一杯でした。中にはとても基本的な問題もあったので、卒研などで論文を読むことに慣れておけば試験対策になると思います。

そして面接ですが、面接では次のことを聞かれました。

- ・自己紹介(経歴なども)
- ・当病院の基本理念
- ・自分のアピールポイント

自分のアピールポイントや、やりたいことなどを一番多く聞かれたので、そういった事を事前に考えておくと良いかもしれません。

【就職後の仕事】

私は今大学病院の細菌検査室で働いています。大学病院の検査部は、人がたくさんいて仕事也多岐にわたるので、学生時代に抱いていたような”病院検査部は狭い世界”というようなイメージはあまりありません。実際の仕事は、採血業務や輸血当直、緊急検査当直なども当番制で行っており、細菌検査以外にも色々な検査を覚えなければなりません。また、その他事務仕事やマネジメントと呼ばれる委員会活動にも参加したりと、思った以上に大変なこともあります。しかし、大学病院は非常に恵まれた環境だと私は考えます。業務後に様々な勉強会が開かれたり、勉強熱心な先輩技師に教わることができたり、希望をすれば進学することもできます。ただ、ルーチン検査に追われて忙しい環境ではなく、自分次第でいくらでも自分を磨くことができる場なのではないかと思えます。

以上が私の昨年1年間の就活体験記です。他の病院はもちろん、同じ病院でも毎年試験の傾向は変わるので全て皆さんにも当てはまるとは言えませんが、少しでも皆さんの参考になり、今後の就活に役立ててもらえると嬉しいです。

1 回生 Y・S 市立病院勤務

編入学をしたものの、大学院への進学か就職かはっきりと決めかねていたため、両方の準備をしていました。

就職は地元つくば周辺でと考えていました。つくば周辺の病院は、大学が近くにあることもあり、お互いに事情がわかっていると思いますが、地元の病院はそうは行かないので早めに病院見学に行こうと思っていました。短大の時から地元の病院の求人情報はチェックしていて、募集時期がだいたい夏だったので、3年の夏には病院見学行きました。

見学先の病院は、実家から通える範囲で考え、2つの病院に行きました。1つは公立の病院で、もう1つは少し大きい病院に行きました。病院によってだいぶ雰囲気が違ったのです

が、あまり大きい病院は自分に合わないと感じたので、自宅周辺の公立病院を中心に探そうと思いました。

試験内容は、

①作文試験：3つあるテーマのうち1つ選び、400字くらい書く→私は、“理想の臨床検査技師像”について書きました。

②一般教養試験：公務員試験用の本を買いました。

③面接：受験申し込み時に自己PRを書いたので、それを覚えるようにはしていました。しかし当日、面接で聞くことを事前に教えてくれたので、それを覚えました。

結局、求人が出たのは自分の見学先の病院ではなかったですが、自宅周辺で求人はそこだけだったので、受験することにしました。私の勤めている病院は、公立の病院で、常勤であるため倍率は高かったです。そうすると、面接はかなり重要となってくるので、自己アピールできる何かがあると非常に良いと思います。大学時代の経験は、後に自分にプラスになることが多いと思うので、いろいろな経験しておくことをお勧めします。

1 回生 H・S 一般企業勤務

「就職活動について」

まず、就職活動の種類なのですが、自分の経験では病院希望か企業希望かで就職活動の方法が変わってくると思います。

企業就職を希望する場合は就職活動を始める時期としては、早い人では2年生の終わりの時期から希望の職種セミナーなどを受けて開始する場合がありますが、普通の場合はほとんど3年生の秋頃からが本格的な就職活動の時期にあたると思います。そして、大体の就活生はインターネット上で就職サイトに登録して自分の希望する職種で企業を検索し会社説明会に参加し、試験を受けたい場合はその会社ごとに試験を受けます。医療科学内では一般企業について知る機会があまりないと思いますので、まずは大学の就職課に相談に行

くのがいいと思います。

病院を希望する場合は、まず病院見学から始まります。時期としては一般の就職活動に比べると遅く、4年の1学期が終わって、夏休みを利用して病院見学に行くのが多いと思います。病院見学は個人で申し込むと受け付けてもらえない場合があるので、医療科学の先生方のどなたかに紹介状をかいてもらい、その後、各病院に申し込むのがベストです。そして、病院のを見つけ方なのですが、すでに募集が出ている病院を受けるのならいいのですが、臨床検査技師の求人が病院側にはあっても、実際にホームページ上などに募集情報が載らない場合もあり、その場合は医療科学や医学系の先生方が紹介してくれる病院であれば紹介状を書いてもらい、応募するのがいいと思います。

この際、クラスメイトなどと情報を交換し、「あの先生は**病院を紹介できるらしいよ！」みたいな感じで情報を得るのも手です。また、医療科学類棟内の掲示板にも求人要綱が張り出されている場合があるので、こまめにチェックしたほうがいいです。

次に試験の内容なのですが、試験は大体が筆記試験と面接になると思います。筆記試験の対策としては、国家試験の勉強をしていくのと、記述問題対策として方法、原理、機序なども説明できるといいと思います。ですが、基本的には国家試験対策の勉強が大変だと思うので、そちらを優先させるべきでしょう。面接では病院を選んだ理由などが聞かれているみたいです。

最後に、この他のアドバイスとしては、臨床検査技師の求人は卒業ぎりぎりになって出たり、中には卒業してから内定が出たり、求人が出たりする場合もあるので、なかなか病院が最後の方まで病院が決まらなくてもあせらず国試勉強と両立させて就職活動を行っていった方がいいと思います。また、医療科学の先生方に色々相談して自分の将来について決めていくのも大事なことです。